

# じつきょう

## 商業教育資料 No.90 通巻378号

### 商業高校におけるキャリア教育の現状と課題

東京都立芝商業高等学校長

本多 吉則

#### 1. キャリア教育の現状

商業高校はその立地によって、また学校の歴史によって抱える課題が様々であり、一括しては語りきれない要素が多い。従って、ここではまず私の勤務校である都立芝商業高校について語ることから始めさせていただきたい。

卒業後の進路としては、ここ数年は就職者の割合が50%を下回っている。進路指導部を中心とした指導と立地の良さから、これまでは就職希望者全員が内定を得ている。しかし、今後これが継続されるかは予断を許さない状況である。大学進学者の過半数が、指定校推薦や資格を活用した何らかの推薦によるものであることは変化がない。

入学する生徒が多様化するに伴い、商業科目とはあまり関連を持たない進路先が増えてきている。例えば、理容・美容・調理・保育・福祉等の実技系専門学校への進学である。商業を広くサービスと捉えようと、こうした進路も商業高校からの進路先の範疇として考えられるが、専門教育・職業教育としての商業科目がこうした進路を希望する生徒の役に立っているか再考する必要がある。

これまでと同様、就職するために本校に入学した

という核となる生徒が本校の校風を代々受け継ぎ発展させていくことは間違いない。しかし、取り立てて目的がなく商業高校へ入学している生徒が少なからず存在しているのが現状の大きな特徴である。

本校では、学校経営計画に示しているとおり以下の学校を目指して教育活動を行っている。

「商業教育を核とした教育活動を通し、人権尊重の精神や個性と創造力の伸張など、東京都教育委員会の基本方針に基づき ①民主的で平和な社会の実現に貢献すること ②自主・自立・協調の精神と豊かな情操を身につけることをもって社会の構成員となることに喜びを感じ、社会人（ビジネスマン・ウーマン）としての必須のマナーを身につけた生徒を育成する」

従って、進路選択に際して就職を選ぶにせよ進学を選ぶにせよ、社会のよき構成員となる人材を育成することを目標にしている。そのためには、社会的マナーを身に付けることは必須と考えている。

この目標達成のため、三年間の進路指導を次の二点を重点に本校独自の進路カードを活用しながら実施している。

①学習習慣を定着させ、基礎学力を身に付ける。資格取得にきちんと取り組む（特に基礎としての漢

#### も く じ

商業高校におけるキャリア教育の現状と課題 … 1	普通科における商業教育の取り組み …… 11
高校生 東北商店街 …… 5	探究型学習による新しい商業教育 …… 15
東日本大震災を振り返って …… 9	電子商取引の基礎知識 …… 19

字能力，文章読解能力，英単語力の継続的な学習を進める。

②高校生活を充実させ，自分の進路のための学習を計画的に実施し，実現させる。

進路指導に関連して，多くの商業高校で実施されているものばかりで，目新しさはほとんどないが，本校で実施している主なものを示すと右表のようになる。

本校では進路選択にあたって，「進路の手引き」において次のような言葉を生徒におくっている。

「進路を考えると第一に考えてほしいことは，いかに自分の人生を豊かに送るか，自分はどのような人間になりたいか，自分に適している職業とは何か…ということです。（略）

自分の人生を真剣に考えてみるのが大切です。目先（収入が良いから，楽だから，仕事をしたくないから等）の本質的ではない動機で進路を考えないで下さい。自己実現の手段として，自分の人生について，冷静にそして真剣に考えることから始めましょう。

就職でも進学でも，進路は多種多様であり，自分に適した進路を決めることは決して簡単ではありませんが，より良い道を探求するために，具体的に次のことを考えてみましょう。

（1）自己理解（2）資料収集（3）客観的判断以上のことをよく考え，最終的には自分の意思と責任のもとに決定してください。（略）」

高校卒業時の進路選択は，人生において計り知れない重要性を持っている。

## 2. 現状における課題

### （1）生徒の意識の変化

商業高校では商業を中心とする専門科目において職業教育を行っている。従って，進路に関しても就職に力点が置かれていることは事実である。しかし，近年，多くの商業高校では，大学等への進学者が増大しており，就職率は，近年増加傾向にあるが，以前から50%は下回っている。

とはいえ，大学等への進学率が増大していることは商業高校の存立を危くする課題ではない。当然，学んだ専門科目をさらに深く学びたいという生徒がいることは嬉しい限りである。特に，公認会計士や税理士等の資格取得をしたい，マーケティング，情報などをより専門的に学びたいという意欲的な生徒

1 学年	一学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二者面接①（4月 担任）</li> <li>・H R 合宿</li> <li>・保護者会（卒業生進路結果，本校進路指導計画，進学関連資金，保護者の役割について）</li> <li>・公務員試験受験のための説明会</li> <li>・二者面接②または三者面接（7月 担任）</li> <li>・ジョブシャドウ（希望者）</li> </ul>
	二学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二者面接③（9月 担任）（学校生活と進路カードに基づく）</li> <li>・保護者会（生徒の学習状況，進路準備状況についての説明）</li> <li>・インターンシップ</li> </ul>
	三学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二者面接④（3月 担任）（生徒の学習状況と進路カードに基づく）</li> <li>・進路講話</li> </ul>
2 学年	一学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二者面接⑤（4月 担任）</li> <li>・職業体験実施</li> <li>・保護者会（生徒の学習状況，進路準備状況，今後の進路活動についての説明）</li> <li>・二者面接⑥または三者面接（7月 担任）</li> </ul>
	二学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二者面接⑦（9月 担任）（生徒の学習状況と進路カードに基づく）</li> <li>・保護者会（生徒の学習状況，進路準備状況，今年度の進路状況・活動について）</li> <li>・インターンシップ1（希望者）</li> </ul>
	三学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二者面接⑧（3月 担任）（生徒の学習状況と進路カードに基づく）</li> <li>・進路体験発表会（3年生による）</li> <li>・面接指導①（進路指導部による）</li> <li>・インターンシップ2（希望者）</li> </ul>
3 学年	一学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二者面接⑨（4月 担任）</li> <li>・保護者会（進路全般に関して）</li> <li>・面接指導②（進路指導部による）</li> <li>・会社・官庁見学会</li> <li>・進路懇談会（就職・進学した卒業生との懇談）</li> <li>・三者面接⑩（6月 担任・保護者）（進路の確認，具体的学習内容の検討）</li> <li>・大学指定校等入試説明会</li> <li>・専門学校等入試説明会</li> <li>・小論文・英語検定対策講座</li> <li>・面接指導③（担任，進路その他）</li> </ul>
	二学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面接指導④（担任，進路その他）</li> <li>・二者面接⑪（9月 担任）（夏休みの学習計画の達成度の確認，進路対策）</li> <li>・連携中学校へのビジネスマナー指導</li> </ul>
	三学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二者面接⑫（2月 担任その他）（卒業後の生活その他）</li> <li>・進路講話（外部講師による）</li> <li>・2年生に対する進路体験発表会</li> </ul>

は多く存在している。

しかし、「卒業後、すぐに就職したくない。」「自分のしたい事が分からない。」「周囲がほとんど進学するので、取り残されたくない。」「就職希望者に対しては生活指導等が厳しい。」などの理由で進学を選択する生徒も少なからず存在する。この層の増大は、大きな課題である。

社会と保護者の意識の変化ははっきりと感じられる。大学へ行かないとより良い職業に就けないという思い込みがある。

### (2) 基礎学力の低下

商業高校に、目的意識なく入学してくる生徒が増えてきている。先に意識の変化でも述べたが大学進学率が高くなり、職業に関する専門高校の人気がなくなっている。もちろん、魅力ある学校づくりは当然の責務である。人気がないということは魅力を感じられなくなっていると同義であるとの認識を持たなくてはならない。日夜、魅力ある学校づくりに邁進しなければならない。

しかし、商業高校への志願者が減少しているということも厳然たる事実である。このため、入学を希望すれば入学できるという現状から、入学生の基礎学力が低下してきている。

### (3) 学習についての課題

現実に社会で行われている事を教えていないのではという疑問がある。これは、商業に関する専門科目についてのことなのであるが、各商業科目は実学を標榜している。取引を記帳し、会計処理を学習する「簿記」・「会計」や商業科目の集大成である「総合実践」などが代表的ではある。しかし、「簿記」・「会計」では教えていることは資格取得には役立つが、実際の企業活動では役に立たないと言われることが多い。また、「総合実践」では、旧態依然とした隔地間の企業取引が行われていることが多い。また、プレゼンテーション能力を高める努力をしているとは言いがたい。つまり、教授している科目と現実との遊離が大きくなっており、もはや、実学とはいえないという問題がある。

また、資格取得とはいっても医師や建築士などの国家資格とは違い、資格取得していなくともその分野の職業に従事することは可能である。さらに言えば、資格を取得しているからといってその分野の職業に従事できるとは限らないのである。資格取得するための努力、取得した達成感は確かに重要である

が、その限界を認識して指導することが重要である。

## 3. 課題の克服に向けて

### (1) インターンシップ

インターンシップに関しては、本校ではこれまでも、2学年後半と3学年1学期で実施してきた。しかし、課題は就職希望の中からの希望者が対象であったことである。また、実施時期が2学年の後半以降ということやや遅いという問題も指摘されていた。また、見学会も実施しているが、会社・官庁の表面的なものだけを体験する活動に陥りがちである。

このため、1学年全員に対して12月に特別活動の一環としてインターンシップを実施している。1学年は210名である。これに対して東京2,350地区ロータリークラブの全面的なご協力で、約85社から260名ほどの受入れを申し出いただいている。様々な業種・所在地の企業が含まれており感謝に堪えない。今年度の実施時期は受入企業との摺り合わせの結果12月上旬に決定している。

今年度は、1学年にとどまらず2学年の就職希望者を対象にインターンシップ参加を募ったところ100名近い生徒から希望があった。ロータリークラブのご協力と本校で開拓した企業のご協力で実施の予定である。

この試みは、保護者の90%以上、生徒の85%以上から強く支持されている。成果をより確かなものにするためには事前・事後学習が重要である。

### (2) ジョブシャドウ

ジョブシャドウは、近年キャリア教育の一つとして広まりつつある。生徒一人が、企業の社員一人にシャドウ（影）のようについてまわり、社員が仕事をする姿を通して会議の熱気や緊張感を感じ、仕事の厳しさを肌身で体験する試みである。「仕事に打ち込む人の姿」を身近で観察して、将来の職業選択に役だてようという目的で行われる。

本校では、毎年1学年希望者20数名を対象に夏期休業中に実施している。三菱UFJフィナンシャルグループ全体で受け入れていただいている。将来、職業を選ぶ際に多くの選択肢があることや、希望の職業に就くためにはどのようなスキルを習得すればよいのかを学ぶことができ、好評である。

ここで、参加した生徒の代表的な感想を紹介させていただく。

「(略)人がしている仕事を見るのではなく、仕事

をしている人を見るというコンセプトを（略）教えていただきました。私が社員の方を見ていて気付いたことが二つあります。一つ目は社員と社員の接触が多いことです。（略）私にとって社員の皆さんが実際に働いている姿を見るのは初めてだったので本当によい経験をさせていただいて感謝の気持ちでいっぱいです。二つ目は、お客様に対する対応がとても良かったことです。（略）社員の方を間近で色々なことを学ばせていただいたおかげで自分の将来の職業選択に役立ちます。」

### （3）朝学習

基礎的学力を身に付けさせる一つの方法として、1・2学年が朝15分の学習を継続的に行っている。これまでも、3学年1学期には朝全員がSPIを学習し、週2回確認テストを実施している。これに加えて1・2学年全員が朝学習を行うこととした。近い将来全学年がこれに取り組める校内体制を整えたいと考えている。

これは、近年、本校に入学してくる生徒の学力が相対的に低下しているという指摘がある。これに加え、就職等に臨んだ際に適性検査と同時に基礎学力検査が実施される場合が多くなり、所定の成績を収められない生徒の割合が高くなったためである。商業科目以外の普通科目について学習を続けている。

生徒にとっては所与になり、遅刻が激減した。遅刻をなくすということが目的ではなかったが、思わぬ好結果を生んでいる。また、学校は学習する場であるという当然のことが朝から認識されている。今後、単位化への検討を行っている。

この学力向上の取り組みについては、朝学習の他、7時間授業、土曜授業など学校の実態に合わせた工夫が不可欠である。つまり、朝学習が最も効果がある取組みという訳ではない。今後更なる検討が必要である。

## 4. 今後のあり方について

### （1）生活指導

これまでも、社会的マナーを身に付けることは必須と考え生活指導を行ってきた。これを継続し、「時間を守り、身だしなみを整え、あいさつを行う」ことが、当然のこととされるように指導していきたい。

商業高校の卒業生に限ったことではないが、「あいさつはするが、その次の言葉がほとんど出てこな

い。」ということを経験したことがある。つまり、時候や天候に関する短いあいさつは淀みなく出来るが、その場の状況に応じた適切なその次の言葉がスムーズに出てこないということである。これはどこに問題があるだろうか。これは、先にも述べたことであるが商業高校卒業生に限ったことではない。日本人全体にとって不得意とされている点でもある。やはり、会話、コミュニケーションが同年代や仲間内だけで行われ、大人とは会話の機会がほとんどない事が大きな原因であろう。

これは、キャリア教育・職業教育以前の問題ではあるが、克服しなければならない重要な課題である。社会全体でマニュアル人間を育成しているのかもしれない。私達に求められていることは、平均の人間を育成するのではなく、社会をリードする人間を育成していくことにある。この観点からも、しっかりとした、適切な生活指導は商業高校の生命線である。

### （2）教育課程

商業高校は実学を標榜している。この実学とは職業教育のことである。キャリア教育の視点だけではなく、専門的な知識、技能、能力や態度を育成し、職業に円滑に移行する準備や自己の将来の可能性を広げていくことができる職業教育の充実を図ることが重要である。このため実社会で行われていること・期待されていることと遊離してしまっただけでは、その意味をなさない。

具体的に考えれば、商業高校では従前より簿記会計教育に力を入れている。この結果、資格取得に力点が置かれてきた。そのため、財務諸表を作成する力はある程度身につけているが、財務諸表を読む力が身につけているとは言い難い。もちろん基礎は大切ではあるが、生徒の将来に役立つという観点を忘れてはならない。

さらには「各教科・科目においていわゆる座学と実験・実習の有機的な連携を図り、基礎的・基本的な知識・技能の一層の定着を図るとともに、『課題研究』等の実践を通して、問題解決能力、自発的・創造的な学習態度の育成の充実を努めることが必要」（「キャリア教育・職業教育特別部会」の第2次審議経過報告より）である。しかし、これが言うが易く、成果を上げるのが困難な課題ではある。

しかし、地域から期待される生徒を送り出し、生徒・保護者の希望を叶える指導を広く続けていかなければならない。